

衣料品への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

5月になり、衣替えの季節が近付いてきました。そこで今回は、衣料品への支出について家計調査結果からみてみましょう。

「被服及び履物」の割合は低下傾向

1世帯当たりの消費支出に占める「被服及び履物」の割合の推移をみると、昭和40年代までは10%前後の高い割合となっていました。徐々に低下傾向となり、平成21年には4.4%となっています。また、「被服及び履物」の内訳の割合をみると、洋服やシャツ・セーター類は上昇している一方、生地・糸類、和服、仕立代などを含む被服関連サービスは低下しています（図1）。

ショッピングは土日祝日に

次に、平成21年5月～7月の1世帯当たりの「被服及び履物」の曜日別1日当たり支出金額をみると、土日祝日に支出が多くされていることがわかります。最も支出の多い土曜日は、最も少ない火曜日に比べ、2倍近くの支出金額となっています（図2）。

注1) 図2の曜日のうち「祝」は土日を除く祝日である。

購入単価から分かる低価格志向

最後に、洋服及びシャツ・セーター類^{注2)}の1着（枚・本）当たり購入単価（平均価格）を、平成17年を100とした指数で品目別にみると、平成21年は17年に比べ、すべての品目で低くなっています。また、平成21年の購入単価指数と一定の品質のものの価格の変化を表す消費者物価指数を平成17年と比べると、すべての品目で購入単価指数の方が大きく下回っていることから、近年の衣料品に対する消費者の低価格志向がうかがえます（図3）。

注2) 洋服及びシャツ・セーター類のうち、家計調査結果で平均価格を表章している品目（学校制服を除く）を掲載した。

図1 消費支出に占める「被服及び履物」の割合及び

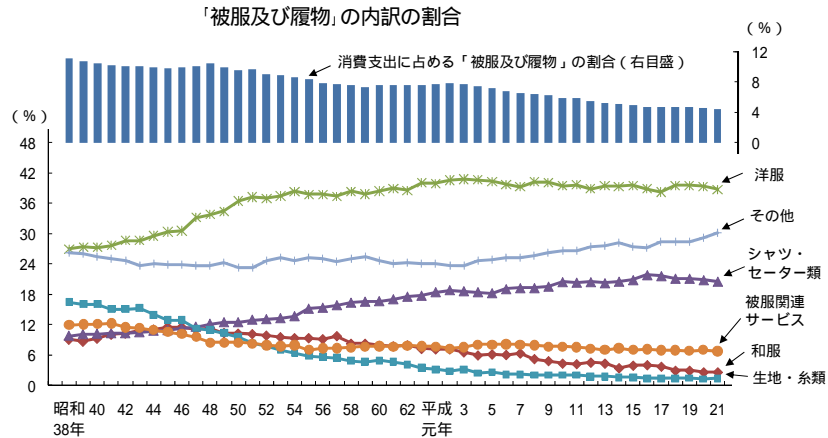


図2 「被服及び履物」の曜日別1日当たり支出金額
(平成21年5月～7月平均)

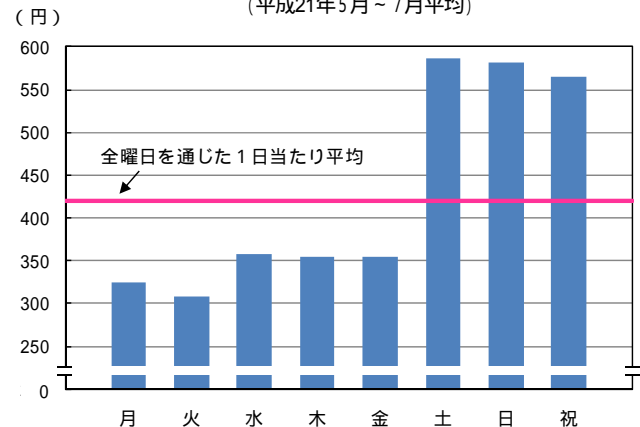
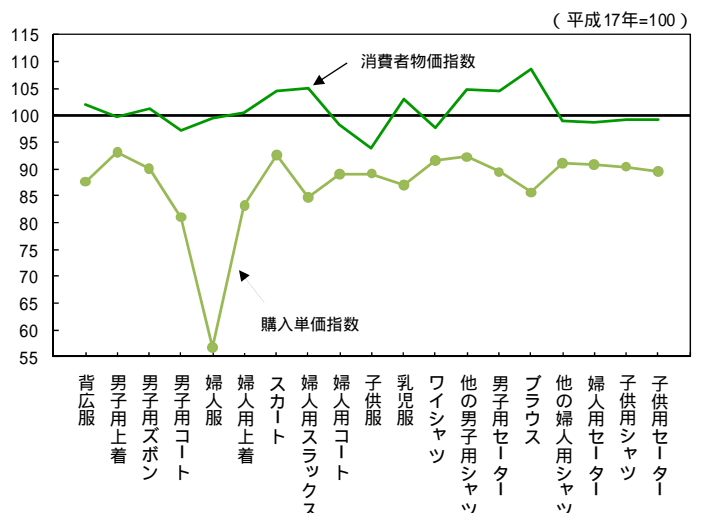


図3 洋服及びシャツ・セーター類の品目別購入単価指数
及び消費者物価指数(平成21年)



「家計調査通信435号（平成22年5月15日発行）」より